

学校評議員会議事録

日 時	平成30年11月29日(木) 10時00分 ~ 11時50分	
会 場	北海道白糠養護学校 会議室	
出席者	学校評議員 4名	学校側 5名
出席者名	小 淵 隆 司 中 岡 美 緒 田 嶋 宏 祥 山 田 誠	菅 原 康 之 石 渡 雅 道 伊 藤 ル ナ 児 玉 崇 志 佐 藤 茂 枝 美
校長が意見を求めた事項	内 容	
学校及び各学部運営に関する 質問・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ (質問) 高等部と中学部の昼食の時間が、日常生活の指導の生徒と自立活動の時間の生徒がいるようですが、どう違うのですか。 ・ (回答) 自立活動は、自分では摂食が難しいお子さんが、食事を通じて身体の使い方を学ぶことに主を置いた指導です。日常生活の指導は、集団行動の中で食事のマナーを身に付けるというような指導を主に置いています。 ・ (意見) 児童生徒数が減っていく中で、同年代との交流が難しい。地域の学校との交流や、また社会見学は子ども達にとってイキイキとした体験となり、社会性を身に付けるきっかけとなっているのでぜひ継続していただきたい。 ・ (質問・意見) 施設見学について、子ども達だけではなく、保護者や職員も含めて進路先の施設状況の把握が必要だと思う。子どもだけ行って「楽しかった」で終わるのではなく、情報を蓄積して次年度の児童生徒に対してに対して教えていけるような環境となっているのか。 ・ (回答) 進路先の情報は、進路指導部を中心にかなりの回数施設を訪問し、情報収集をしています。その中から児童生徒の実態を考え、施設見学をしています。実習の目的は、まず「人に慣れる・体験をする」ことです。 しかしながら、本校としても、小・中・高と学部が上がるにつれて、進路に向けた意識の積み上げ方を丁寧にまとめていく必要はあると思います。また、同時に学校の中で、子ども達のコミュニケーション能力の向上を図っていく必要があると思っています。 ・ (意見) 児童生徒数の減少に伴い、学年の編成にこだわらず、異学年の学び合いや集団活動の在り方を考察・研究していく必要があると思う。 ・ (意見) 小学部で使用している「授業改善シート」は、とても有効だと思う。授業の共有になり、やりとりできるのがいい。 	
上記のとおり会議を開催した。		
平成30年11月29日 北海道白糠養護学校長 菅 原 康 之		

*別の様式により意見聴取の内容を整理している場合には、それを添付し保管すること。

*配付資料などを添付し保管すること。